

言語学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
言語学特論Ⅰ	フィールド言語学の実践と理論	2	内藤真帆	前期 火曜日 4 講時	言語学特論Ⅰ
言語学特論Ⅱ	言語と思考	2	小泉 政利	後期 月曜日 4 講時	言語学特論Ⅲ
言語学特論Ⅲ	音韻論概説Ⅰ	2	那須川訓也	前期 水曜日 4 講時	言語解析学特論Ⅰ
言語学特論Ⅳ	コーパス言語学の基礎	2	李在鎬	前期 火曜日 3 講時	言語解析学特論Ⅱ
学習・言語心理学特論Ⅰ	学習・言語心理学の基礎	2	木山 幸子	前期 水曜日 2 講時	言語学特論Ⅳ
言語学総合演習Ⅰ	言語学研究法Ⅰ	2	小泉 政利 木山 幸子 内藤 真帆 王 軒 熊 可欣	前期 金曜日 4 講時	言語学研究演習Ⅰ
言語学総合演習Ⅱ	言語学研究法Ⅱ	2	小泉 政利 木山 幸子 内藤 真帆 王 軒 熊 可欣	後期 金曜日 4 講時	言語学研究演習Ⅱ
言語学研究演習Ⅰ	未知の言語の調査と分析	2	内藤 真帆	後期 火曜日 4 講時	言語解析学研究演習Ⅰ
言語学研究演習Ⅱ	統語論入門	2	小泉 政利	前期 月曜日 4 講時	言語解析学研究演習Ⅲ
言語学研究演習Ⅲ	言語実験・調査実践	2	木山 幸子	後期 水曜日 2 講時	言語解析学研究演習Ⅴ

科目名：言語学特論 I / Linguistics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：内藤真帆

コード：LM12404 科目ナンバリング：LIH-LIN601J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：言語学特論 I】

1. 授業題目：フィールド言語学の実践と理論
2. Course Title (授業題目)：Field Methods and Linguistic Analysis
3. 授業の目的と概要：フィールド言語調査の基本的な流れを、言語選定・調査地の探し方から調査票作成、調査・分析まで実践的に学びます。異なる言語集団の接触により誕生したピジン・クレオールを対象とし、基本的な音声・形態・文構造・意味の分析によりその言語特徴を明らかにするほか、音声と書記法・言語と国家・言語政策・言語接触・威信・借用などの社会言語学の観点からも分析・考察します。併せて、文化・歴史と関連させた言語人類学の観点からも考察します。なお比較・対照のために複数の言語データを扱います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course introduces the fundamentals of research methodologies in Linguistics, covering everything from preparing the research project to them conducting it and analyzing the results. Students will research pidgin and creole, and analyze the data according to the perspective and methods of various approaches, such as descriptive linguistics, socio-linguistics, and linguistic anthropology.
5. 学習の到達目標：
 - ・ピジン・クレ奥ールの言語特徴を分析により導く。
 - ・言語調査の方法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will have an understanding of the key procedural elements of field research in Linguistics, and they will also be able to explain the characteristics of pidgin and creole.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. フィールド言語学・記述言語学とは
 2. 調査地・調査言語の選定方法・調査許可
 3. 調査方法・調査準備・調査票 1 の作成
 4. ピジン・クレオールの背景
 5. ビスマラ語の聞き取り
 6. 現地語の聞き取り
 7. 3 言語の音声・音韻・形態の分析と比較
 8. 仮説の設定と調査票 2 の作成
 9. 3 言語の句構造・文構造の比較
 10. 名詞・動詞のパラダイム、意味体系の比較
 11. 仮説の設定と調査手法
 12. 3 言語の比較から導くピジン・クレオールの特徴
 13. 音声と書記法、言語と国家、威信、借用
 14. 言語接触のプロセスと言語変化
 15. 社会言語学・言語人類学的分析と発展研究
8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)
9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。
10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：言語学特論Ⅱ／Linguistics (Advanced Lecture) I I

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：2 学期 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LM21406 科目ナンバリング：LIH-LIN602J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：言語学特論Ⅲ】

1. 授業題目：言語と思考

2. Course Title (授業題目)：Language and thought

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、言語と思考に関する研究事例の批判的検討を通じて、心理言語学の基礎を学ぶことである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this class is to learn the basics of psycholinguistics through a critical review of research cases on language and thought.

5. 学習の到達目標：

下記について自分なりに説明できるようになることを目標とする。

a) 文の理解と産出の心内処理メカニズム

b) 言語と思考の関係

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of the course, students should acquire a basic understanding of

a) mental processes underlying sentence comprehension and production, and

b) the interaction of language and thought.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス、語順と文処理負荷 1：有生性

2 語順と文処理負荷 2：格助詞、意味役割、文法関係

3 語順と文処理負荷 3：SO 語順選好

4 演習 1：痕跡の心理的実在性

5 言語と脳 1：脳の構造と機能局在、脳機能計測、言語処理の神経基盤

6 言語と脳 2：語順選好と左下前頭回

7 言語と脳 3：かき混ぜ処理の時間経過

8 言語と脳 4：言語産出の処理負荷

9 演習 2：言語の理解と産出

10 ニ格目的語とヲ格目的語 1：ニ格目的語他動詞文、統語的使役文

11 ニ格目的語とヲ格目的語 2：語彙的三項動詞文

12 演習 3：頻度と予測

13 情報構造 1：情報構造がかき混ぜ文理解に与える影響とそのタイミング

14 情報構造 2：情報構造と統語構造がかき混ぜ文処理に与える影響：ERP に基づく検討

15 復習とレポート試験

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

・レポート試験：50%

・各授業の小レポート：50%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：言語学特論Ⅲ／Linguistics (Advanced Lecture) III

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：那須川訓也

コード：LM13406 科目ナンバリング：LIH-LIN603J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：言語解析学特論 I】

1. 授業題目：音韻論概説 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology I

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節・超分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声が、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on segmental patterns and suprasegmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学習の到達目標：

この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音体系, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native sound system, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belongs in a general theory of grammar.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第 1 回：音韻論とは何か。

第 2 回：音韻論と音声学

第 3 回：規則体系としての言語

第 4 回：言語機能

第 5 回：中核文法と周辺体系

第 6 回：音素論

第 7 回：音素と異音

第 8 回：対立分布と相補分布

第 9 回：異音規則

第 10 回：音配列論

第 11 回：音節構造

第 12 回：きこえ度

第 13 回：音韻範疇

第 14 回：母音素性

第 15 回：子音素性

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (50%), 確認テスト×1 (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利 (編) 2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。
[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：言語学特論Ⅳ／Linguistics (Advanced Lecture) IV

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：李在鎬

コード：LM12306 科目ナンバリング：LIH-LIN604J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：言語解析学特論Ⅱ】

1. 授業題目：コーパス言語学の基礎

2. Course Title (授業題目)：Basic corpus linguistics

3. 授業の目的と概要：この授業では、コーパスデータを利用したデータ分析の方法について学びます。前半では研究デザインとデータの集め方や集計方法について説明します。後半では、コンピュータを使って分析をしながら、データ分析を体得します。データファイルの作成から分析にいたる一連のプロセスを紹介します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn the methodology of data analysis utilizing corpus data. First, the instructor will explain research design, data collection and calculation. Then, we will experience the process of data analysis using computer, including the ways of making data files and analyze them.

5. 学習の到達目標：

1) 生データから、コンピュータツールを使い、集計を行うことができる。2) 集計したデータの記述統計量や相関などの特徴を分析できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, students will learn:

- 1) how to collect and summarize data using computer
- 2) how to analyze descriptive statistics and correlations of the data

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ガイダンス

第2回 データ分析の心得：データを使った研究で大切なこと

第3回 研究をデザインする

第4回 データを集める

第5回 データを数える

第6回 データを可視化する

第7回 データの代表値を計算する

第8回 データとデータの間を調べる 1

第9回 データとデータの間を調べる 2

第10回 データとデータの間を調べる 3

第11回 データとデータの間を調べる 4

第12回 データとデータの違いを調べる 1

第13回 データとデータの違いを調べる 2

第14回 データの特徴を抽出する 1：KH Coder の利用

第15回 データの特徴を抽出する 2：KH Coder の利用

8. 成績評価方法：

平常点（出席、クラス参加、グループ作業の成果等）60%、レポート40%

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書として、李在鎬、石川慎一郎、砂川有里子（2018）『新日本語教育のためのコーパス調査入門』（くろしお出版）、小林雄一郎（2019）『ことばのデータサイエンス』朝倉書店を持っておくと良いと思います。

10. 授業時間外学習：データ分析課題をさせていただきます。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：学習・言語心理学特論Ⅰ／Psychology of Language and Learning (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LM13207 科目ナンバリング：LIH-LIN605J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：言語学特論Ⅳ】

1. 授業題目：学習・言語心理学の基礎

2. Course Title (授業題目)：Basics of learning psychology and psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：学習心理学および言語心理学は、いずれも人間の行動様式の変容過程について、実験によって確かめようとする科学的研究分野です。本科目では、学習・言語心理学の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの知見を得るために対してなぜそのような方法論がとられているのかを考えながら、科学的方法論の趣旨を理解することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The study of learning psychology and psycholinguistics involves scientific investigations of processes in which human behaviors change, utilizing experiments. In order to have a general understanding of these fields, students are required to summarize a paper to share with other students. They will think about connections between purposes and procedures to understand essential components of scientific research.

5. 学習の到達目標：

学習・言語心理学の考え方や方法論の概要を理解する。当該領域の文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of this course, students should have a general understanding of concepts and methodology of learning psychology and psycholinguistics. They will improve effective presentation skills using their everyday vocabulary to share major points of research papers in this field with those without the knowledge.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の通りに進行する予定である。

- (1) ガイダンス：研究方法論と研究倫理（教員）
- (2) 実験研究の論文構成（教員）
- (3) 学習心理学概要（受講生）
- (4) レスポンデント（古典的）条件づけ（受講生）
- (5) オペラント（道具的）条件づけ（受講生）
- (6) 問題解決（受講生）
- (7) 技能学習（受講生）
- (8) 社会的学習（受講生）
- (9) 心理言語学概要（受講生）
- (10) 音韻の発達（受講生）
- (11) 語彙の発達（受講生）
- (12) 文法の発達（受講生）
- (13) 談話・会話処理の発達（受講生）
- (14) 言語に関わる障害（受講生）
- (15) まとめ（教員）

8. 成績評価方法：

期末レポート（50%）、発表分担（30%）、毎回授業の最後に課すワークシート（20%）

9. 教科書および参考書：

指定しない。講読する文献のパッケージを配布する。

10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと（その自信がない場合は受講しないこと）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：言語学総合演習 I / Linguistics (Integration Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：小泉 政利・木山 幸子・内藤 真帆・王 軒・熊 可欣

コード：LM15405 科目ナンバリング：LIH-LIN606J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：言語学研究演習 I】

1. 授業題目：言語学研究法 I

2. Course Title (授業題目)：Methods and practices of linguistic research I

3. 授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、論文発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、方法、結果と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。

2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。

3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の分野への理解をも深めつつ、他者の論文をよりよいものことに貢献する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course students will deliver an oral presentation of their research, followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should cover the aim, data, method, results, discussion and conclusion.

2. The presenter is encouraged to further improve the presentation on the bases of the discussion.

3. Participants should seek to gain acquaintance in various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学習の到達目標：

学会発表・論文作成の方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop skills needed to present a paper in an academic meeting and/or to submit a paper to an academic journal.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは sch6pdx です。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力して下さい。

1. ガイダンス
2. 論文 1 の口頭発表、質疑応答
3. 論文 2 の口頭発表、質疑応答
4. 論文 3 の口頭発表、質疑応答
5. 論文 4 の口頭発表、質疑応答
6. 論文 5 の口頭発表、質疑応答
7. 論文 6 の口頭発表、質疑応答
8. 論文 7 の口頭発表、質疑応答
9. 論文 8 の口頭発表、質疑応答
10. 論文 9 の口頭発表、質疑応答
11. 論文 10 の口頭発表、質疑応答
12. 論文 11 の口頭発表、質疑応答
13. 論文 12 の口頭発表、質疑応答
14. 論文 13 の口頭発表、質疑応答
15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

質疑への参加 60%、発表 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：言語学総合演習Ⅱ／Linguistics (Integration Seminar) II

曜日・講時：後期 金曜日 4講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：小泉 政利・木山 幸子・内藤 真帆・王 軒・熊 可欣

コード：LM25405 科目ナンバリング：LIH-LIN607J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：言語学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：言語学研究法 II

2. Course Title (授業題目)：Methods and practices of linguistic research II

3. 授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による口頭発表と質疑応答の形式で行う。これにより、学会発表および論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

1. 発表者は、発表のためのハンドアウトを事前に作成したうえで、研究目的、資料、分析と考察、結論を所定の時間で口頭発表する。

2. 質疑応答を参考にして論を練り直し、また、プレゼンテーション方法を再考し、学会発表や雑誌投稿ができるよりよい論文にするよう努める。

3. 参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッションに参加することによって、自己の研究領域以外の分野への理解をも深めつつ、他者の論文をよりよいものことに貢献する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course students will deliver an oral presentation of their research, followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should cover the aim, data, method, results, discussion and conclusion.

2. The presenter is encouraged to further improve the presentation on the bases of the discussion.

3. Participants should seek to gain acquaintance in various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学習の到達目標：

学会発表・論文作成の方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will develop skills needed to present a paper in an academic meeting and/or to submit a paper to an academic journal.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法：オンライン

1. ガイダンス

2. 論文1の口頭発表、質疑応答

3. 論文2の口頭発表、質疑応答

4. 論文3の口頭発表、質疑応答

5. 論文4の口頭発表、質疑応答

6. 論文5の口頭発表、質疑応答

7. 論文6の口頭発表、質疑応答

8. 論文7の口頭発表、質疑応答

9. 論文8の口頭発表、質疑応答

10. 論文9の口頭発表、質疑応答

11. 論文10の口頭発表、質疑応答

12. 論文11の口頭発表、質疑応答

13. 論文12の口頭発表、質疑応答

14. 論文13の口頭発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

質疑への参加 60%、発表 40%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表に使用するハンドアウトは、事前に作成し、配布すること。ここでの発表を学会発表や論文投稿につなげることが望ましい。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：言語学研究演習 I / Linguistics (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LM22405 科目ナンバリング：LIH-LIN608J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：言語解析学研究演習 I】

1. 授業題目：未知の言語の調査と分析
2. Course Title (授業題目)：Research, Analysis, and Description of Non-Researched Languages
3. 授業の目的と概要：未調査・未解明で文字を持たない消滅寸前の少数言語、このような世界の言語を対象に、音声から音韻、形態、文の構造まで網羅的に調査・分析する方法を実践的に身につけます。さらに解明したことを言語学上の記号と術語を用いて、専門的かつ体系的に記述する方法を学びます。
理論を用いても説明困難な言語現象をどのように分析・考察しうるか実際のデータを基に検討するほか、記述文法・辞書の作成に至るプロセスを体験し、消滅危機言語のアーカイブ化についても議論します。当講義では、話者 4 人の言語と話者 500 人の言語の一次データを扱います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will focus on endangered languages that have not yet been researched. Students will both analyze data and document them using descriptive linguistic methods. The course will also include discussion about how such languages might be archived.
5. 学習の到達目標：
 - ・未知の言語の調査・分析方法を理解する。
 - ・導いた規則性や分析結果を、言語学の術語を用いて記述できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to research, analyze and provide a linguistic description of an unknown, unresearched language.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 世界の言語状況、未知の言語・調査地の探し方
 2. 未知の言語へのアプローチ方法、調査媒介言語
 3. 調査言語・調査地の決定前に行う準備と許可申請
 4. 調査・分析・記述 1：音声の聞き取りと国際音声記号を用いた書き取り
 5. 調査・分析・記述 2：音素の設定と弁別的特徴
 6. 調査・分析・記述 3：形態音韻論的現象
 7. 調査・分析・記述 4：語形成のプロセスと音韻規則
 8. 調査・分析・記述 5：品詞分類と定義、文法範疇
 9. 調査・分析・記述 6：句・文の構造、文の必須要素
 10. 調査・分析・記述 7：結合価、移動、情報構造
 11. 調査・分析・記述 8：意味役割、意味体系、発話と意味
 12. 調査・分析・記述 9：共時的分析と通時的分析、言語変化
 13. 調査・分析・記述 10：説明困難な言語現象の分析と考察
 14. 調査方法と得られるデータの違い、データの記録方法
 15. 消滅危機言語の記述、保存と継承、アーカイブ化
8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)
9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。
10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：言語学研究演習Ⅱ／Linguistics (Advanced Seminar) II

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LM11403 科目ナンバリング：LIH-LIN609J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：言語解析学研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：統語論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Syntax

3. 授業の目的と概要：この授業では、まず統語論の基本的な概念と原理を学び、その後にさまざまな統語現象の分析事例に触れます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course deals with the basic concepts and principles of syntax as well as case studies of various syntactic phenomena. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

5. 学習の到達目標：

統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

身近な言語現象について自分なりに分析しようとする姿勢を身につけること。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to describe in their own words the basic concepts and principles of syntax, and develop an attitude of trying to analyze familiar linguistic phenomena in their own way.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ことばの科学的研究方法
3. ことばの獲得の不思議、普遍文法
4. 語彙範疇と機能範疇、統語構造
5. X バー理論、文の構造を再考する
6. 意味役割、能動と受動
7. 数量詞と代名詞、コントロールと上昇
8. 非対格仮説、動詞句内主語仮説
9. 主要部移動、Wh 疑問詞と題目の移動
10. 補文の構造、補文の分布
11. 文構造の獲得、文の構造と格関係
12. 名詞句修飾節における格の交替現象、動詞と格の獲得
13. 項省略、名詞句の省略
14. 省略の獲得、2 種類のスクランプリング
15. 移動と語順の制約、否定辞と数量詞の作用域

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：言語学研究演習Ⅲ／Linguistics (Advanced Seminar) III

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LM23208 科目ナンバリング：LIH-LIN610J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：言語解析学研究演習Ⅴ】

1. 授業題目：言語実験・調査実践

2. Course Title (授業題目)：Practicum of experiment and survey of language

3. 授業の目的と概要：本科目では、実証的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザインの立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が助言をしますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れてもらうことを期待します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will provide students teams with the opportunity of a collaborative project to conduct an experiment or a survey to experience an empirical study of language. Each project will include forming a research question, designing an experiment or a survey, preparing materials and the program, data collection, analysis, interpreting and summarizing the finding, and presentation. Each student needs to be cooperative with other members of the team to carry out an independent research until the course completion under supervision of the instructor. The activity will let you find empirical language studies to be fascinating.

5. 学習の到達目標：

実証的言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない（大いに異なる）ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of the practicum is for students to develop the basics of scientific thinking and collaboration skills. Upon the completion of the course, students will understand the significance of data-driven investigations, facing the big difference between actual human language processing and what you have imagined about it.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している。

- (1) テーマ策定
- (2) 研究倫理
- (3) 研究デザイン立案
- (4) 実験・調査準備
- (5) 実験・調査実施
- (6) 取得データ分析
- (7) データの解釈
- (8) 研究のまとめ
- (9) 研究成果の共有

8. 成績評価方法：

グループワークへの貢献（50%）、毎回授業の最後に課すワークシート（20%）、最終レポート（30%）によって評価する。

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習が必要になります。とくに、データを収集する作業は完全に授業時間外に行ってもらうことになります。プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください（初回でその意思の確認をします）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし